	みずみどり
2013年 5月15日 第96号 発行：いたばし水と緑の会 事務局	
年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/ E-mail : mizumidori@nifty.com 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124	

トンボ池とオタマジャクシ 湧水が流れ込まない池はどうなる？



4月5日湧水が流入しなくなって池が干上がり、浅い水際にたくさんのオタマジャクシが群れていた（黒いつぶつぶがオタマジャクシ）。5月12日橋田さんの報告ではオタマジャクシはカエルになりかかっているようです。

昨年秋から湧き水は水路途中で漏れてしまい池までできません。水路を清掃し、ザリガニの穴を塞いだりしているのですが、湧出量も減っているのかもしれない。池を覗き込んだ人から、干上がっているとずいぶん叱られました。「以前はこんこんと湧水が流れ込んでいたのに、なんで水がないんだよ」と言うのです。「畑も住宅になり、緑が減ってコンクリートになれば、湧き水だって減りますよ」と言い返したのですが、水道水を補給する私達も辛い。

ところで池に水が満々とあればそれでよいのでしょうか。

池水が多いときは、放された小魚がいたのでカワセミが来て、カメラが並んだときもありました。水はあっても、ザリガニが増え、コイやアカミミガメが捨てられ、糞などで水質も悪化してプランクトンが池面を覆い、トンボのヤゴはザリガニに食べられていなくなり、カエルが卵を産んでも、カエルになる前に消えてしまう等々・・・見た目と違って強い生き物しかすめない、あまり自

然とは言えない池になっていました。カエルの卵やオタマジャクシが忽然と消える原因は、ザリガニに喰われるよりも、子ども達とカルガモかもしれません。水がいっぱいある池は、(柵があろうがなかろうが)子ども達は入り岸から生き物に手が届く遊び場であり、泳ぎながら餌を採るカルガモには、容易にカエルの卵やオタマジャクシを食べられるエサ場であることがわかりました。



水が深いとカルガモがきてオタマジャクシを飲み込む

コンクリートの池を壊して自然の池ができたのは1999年春、すぐにコイや金魚などあらゆる生き物と共にザリガニも入れられ、ため池にいたザリガニたちも土の水辺に引っ越しして(ザリガニだってコンクリの池より自然の土の池が好き)大繁栄しました。ザリガニに水草もヤゴも食い尽くされ、目の前でオタマジャクシが喰われているところを目撃し、私達は途方に暮れました。気を取り直して、小さな生きもの達の隠れ場所を確保するために、池縁に浅い半島をつくったり、池の中に土を入れて荒川の土と水草を入れ、さらにこれでもかと水際に強いヨシを植えたりと、いろいろやりましたがうまくいかず。以来、たくさんトンボが卵を生みに来ますが、**ヤゴのいないトンボ池のままです。**

さてカエルですが、水をたたえた立派なため池があるのにここでは卵を産まず、今年も枯れる寸前のトンボ池に卵を産みました。変ですね。・・・田んぼや水たまりがなくなった都会で、小さな生きもののために、田んぼにかわる小さな水たまりを用意しようというのが、このトンボ池の目的です。湧き水が減ったことに悲観せず、「小さな水たまり」から発想したいと思います。

この春は池に湧水が入らなくなって、今までとは違った自然が生まれました。わずかな水面と湿地と土の自然空間です。干上がりそうな池に生み付けられたカエルの卵は、オタマジャクシになり、一部は干上がって死に、かなりの数が子ども達やカルガモに襲われました。しかし子供にもカルガモにも手が届きにくい遠浅の池になって、皮肉にもオタマジャクシは生存できたのです。



左：2012年7月、右2013年5月池がかなり干上がって湿地が広がった

5月はじめ、干上がった池にチョウチョ（アゲハ、アオスジアゲハ、カラスアゲハ、ウラギンシジミ）が栄養たっぷりの水を吸いに来ました。荒川から移植した水草は、水の中より干上がり加減の環境を好み、増えています。小さな水たまりでも、もしかしてトンボのヤゴも育つ池になれるかもしれません。

水道水を入れに通ううちに、このトンボ池を気にしている人たちとお話しができました。湧き水が入らなくなったらこの池はどうなるのかと心配する人たちや、あまり手を入れないで、このような自然の場所を残してほしいという人達もいました。

私達は湧き水が少なくなっても、湧き水がある環境を大切に、小さな生きものが住める水辺空間を残したいと考えています。4月27日、池の再生に向けて検討しました。

ヘドロの除去し水質を改善する

湧水水量を確保する

板橋区はこの湧水の涵養域を湧水保全地域に指定しています。これ以上湧水量が減らないよう、環境課は地下水涵養にしっかり取り組んでいただきたいものです。また、湧水水路は人工的につくられたもので年数も経ており、再度点検し、修理方法を検討します。

城址斜面樹林地の崖下の自然（林縁の自然）をよみがえらせる。

これまでビオトープ池のフェンスの中だけで考えていましたが、フェンスの外側には、ニンソウやジロボウエンゴサク、ムラサキケマンなどが花をつけていました。植栽樹等を整理して、城址斜面樹林地と一体となった林縁の自然地として管理していきます。東向きの崖下なので、日照もあり、そのような植物が育つでしょう。池周りの植物は上陸したカエルが外敵から身を隠すためにも必要です（坂本 郁子）。

ビオトープ池の先進事例

江東区仙台堀川ポケットエコスペースを見学して

4月20日、NPO法人ネイチャーリーダー江東の清田さんと会員のみなさんをお願いして、仙台堀川ポケットエコスペース（1992年につくられた）を見学しました（写真左）。後から会員達でダスト舗装されたところに残土を盛ってビオトープを拡大し、ポケットと言ってもバツ広場の倍以上もあり、広い草地とセットのビオトープ池です。江東区では荒川、公園、学校にある小規



模のものも含めて48箇所もあるそうです。各地のビオトープは全部ではありませんが、ボランティア（江東ビオトープネットワーク）が管理し、生き物と植物の調査をしています。ネイチャーリーダー江東は、江東ビオトープネットワークのメンバーとして荒川とこの仙台堀川のビオトープを担当しています。

江東区役所が自然地の環境管理作業や、観察会・啓発活動のリーダーを養成するために実施しているネイチャーリーダー講座には、

会のみなさんが運営を担っておられます。調査・管理・自然教育の現場・仲間作りなどそれぞれがつながりをもつ運営は、なかなか真似の出来ることではありません。そんななかから、「生物多様性チーム江東」が組織され、愛知で開かれたCOP10に出展したそうです。すごいですね。

最後は、やっぱりザリガニの話です。みんなが立ち入れるピオトープ池も、フェンスで囲まれた保護区にもザリガニが入り、水草もヤゴもいなくなってしまうそうです。ザリガニさえいなければ、自然を取り戻す活動は実り豊になったはず、と私達も共感したことでした(坂本 郁子)。



横十間川にある植物保存区にもザリガニが侵入。アナゴ籠にはザリガニがいっぱい入っていた

「孟宗竹の炊飯記」

3月2、3日に行われた梅まつりに参加して、のこぎり体験と木の枝細工、竹細工のお手伝いに行く。その際、竹細工の先生、中山さんにお会いして、孟宗竹でご飯が炊けると聞かされ、長さ25センチ、太さ15センチの孟宗竹を買った。買ったのは、いいが、さて何処で炊いてみようかと思ったが、私の住む町の中は、焚き火禁止となっているので、おおびらには出来ないけれど、もしものときには、炊き出しなんかも経験しておかないと、何が起こるか分からない時代なので、自分の敷地内にて、やってみようと思い、まずは、耐火レンガ5個(1140円)と薪(399円)を用意して、ホウロク皿の上に薪を並べて、いよいよスタート。丁度、息子の嫁さんと孫2人(5歳男と3歳娘)も来ていたので、ジョウロに水をはって、火の怖さ、熱さも体験させながらやることにした。節と節の中間に5センチ四方のふたを作り、1合にも満たない、お米を研いで、竹筒に入れ、水は目分量で点火、ふたを取らないように気遣いながら、約15分位、始め強火で、中ぱっぱの教え通りにやってみた。1度、竹筒が転がりそうになった時に、ふたが外れて中が見えたが、まだ、その時は、お米は固そうだった。それは、強火から、ぱっぱに移る時だったかも知れない。それから徐々に弱火にして、待つことしばし、ふたを取って見ると、量も増えていて、ご飯になっていた。孫に消火作業を手伝って貰い、早速、味見をする。小皿に一口づつ、よそって、孫と嫁さん、私と息子、その友人にも食べてもらう。合格、おこげも少し出来ていて、下の孫娘は、お代わりもした。竹も、切り出してから、なるべく早めに炊飯をやらないと、竹の中の水分がなくなって、燃えてしまう事もあるとのこと。

ご飯の味に、なんの違和感もなく、おいしく食べられた。

私の貴重な初体験でした(山田 元一郎)

白子川・湧水・カタクリの花を訪ねて

練馬にある清水山憩いの森のカタクリから話がはじまりました。ここのカタクリの群落は有名です。が、清水山は東京の名湧水に指定された湧き水があり、白子川に流れ込んでいること、そして白子川流域には湧き水が数多くありことは、あまり知られていません。ならばこの三つをテーマに観察しようと言うことになり、3月23日、白子川と流域の水環境を良くする会のみなさんに案内していただきました。

今年の3月は冬のような寒さが続いた後、突然夏日になるなど、変なお天気でした。この日は早々とサクラが満開という異常気象？に恵まれ、清水山憩いの森では見事なカタクリの花も見られました。

はんのき緑地の枯れてしまった湧水とアカガエル

さて、コースの最初は「はんのき緑地」。建物の下からぼこぼこ湧き出した水が池をつくり、そこから湧水の流れがありました。2009年から湧き水が出たり出なかったりの状態となり、この冬はまったく出なくなったそうです。私が最後に湧き水を見たのは2005年、翌年3月には日本生態系協会の服部さんが絶滅危惧種のアカガエルの卵を確認しています。はんのき緑地は光が丘公園に隣接しているので、湧水が枯れるとは思っていませんでした。年々地面がコンクリート等で覆われ、少しずつ砂漠化している現実を思い知らされました。

さて、カエルの産卵場所ですが、光が丘公園までの遊歩道に不自然なほど頑丈なフェンスで囲まれた小さな池が3箇所ありました。後日、光が丘公園サービスセンターに聞いたところ、これはカエルの産卵を保護するためにつくられた池で、今年もこの池でアカガエルも産卵したそうです。

川の形も周囲の風景も自然が残る白子川中流域

はんのき緑地から白子川に向い、渡る橋は小源治橋。橋の下の土管から、民有地から流れ出た湧水が川に流れ込んでいます。この辺りの白子川は、板橋の三園や成増を流れる白子川とまったく異なり、実にのどかなのです。川は曲がりくねっているし、護岸も低く、川底には岩や泥があります。都県境を流れる白子川は、川越街道から下流と芝屋橋（清水山憩いの森のすぐ下流の橋）から上流は東京都の管轄、中流域は埼玉県の管轄です。板橋区域は水害対策のため早い時期に護



左：芝屋橋から上流（東京都の管轄） 右：芝屋橋下流（埼玉県の管轄）を見たところ。

岸工事がされましたが、中流域は埼玉県の河川改修の遅れが幸いして、護岸も低く、川底も土で岩がごろごろしている自然に近い川の形が残っています。

写真右は、越後山の樹林地と土の細い道と白子川です。川につながる樹林地は、川と一体として保全してほしい自然景観です。



向山親水公園で川の中から川を眺める

2011年、笹目通りにある島忠のそばに川の中に入れる親水公園ができました。上流の比丘尼橋の下流に巨大な調節池（大雨のときに雨を一時貯留する施設）が出来たため、実現できたのでしょう。以前このあたりは川沿いの道もなく、人目に触れるところではなかったのです。親水公園

園は白子川の最前線となり、対岸からにじみ出る湧水、川底から湧く湧水、川の生物など興味が尽きない空間で、子ども達にとってもわくわくする水辺となりました。この日は中に入れましたが、いたずらなどがあったことから施設され、自由に出入りできなくなるそうです。4月13日、白子川の会が実施した魚類調査の下見でアブラハヤとヌマエビがいたそうです。

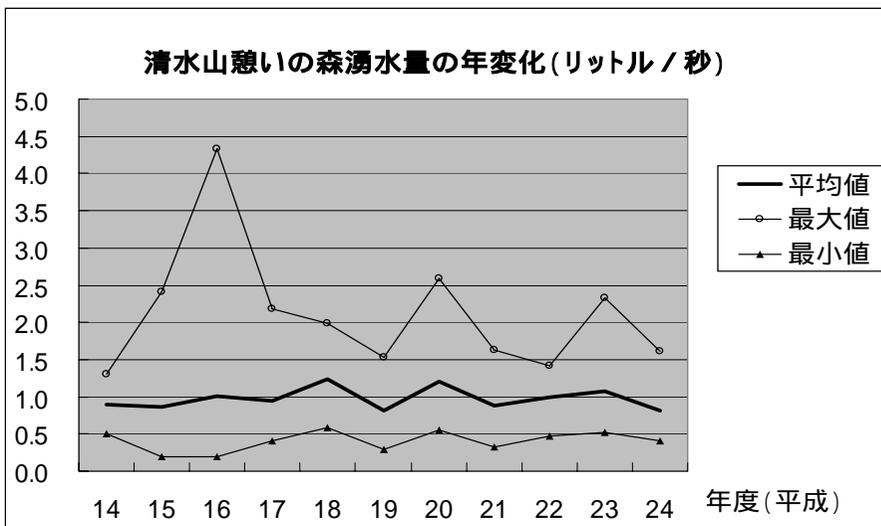


稲荷山憩いの森・清水山憩いの森の湧水（写真右）とカタクリ

白子川には今でもいくつもの湧水地点があります。下流域の湧水については、次号に田中正安さんに紹介してもらいますが、芝屋橋から上流左岸の中里幼稚園、右岸の稲荷山憩いの森、清水山憩いの森、そして目白通りを越えたところに八の釜憩いの森の湧水があり、大泉井頭公園の川底から湧いた水が川のはじまりになります。清水山憩いの森の湧水は東京都の名湧水に指定されています。白子川流域の水環境を良くする会では、平成14年（2002年）から毎月清水山の湧



水量を測定しており、湧水量は雨により変動しますが、平均値で見ると、湧水量は安定しているように見えます。赤塚トンボ池の湧水量は、湧き口で20リットル/分位なので、清水山の湧水量はトンボ池の3倍位になります。



白子川の水環境を良くする会鈴木千恵さん提供

清水山憩いの森は、大泉みどりの会が維持管理をされています。カタクリの季節は会員が常駐しており、この日は会の小泉さんに丁寧な説明をしていただきました。カタクリはサクラと同じ頃に咲き、白花もあります。カタクリの種はアリに運ばれ、花をつけるまでに7, 8年かかるとか。下向きに咲く花がよく観察できるように鏡が置いてあり、行き届いています。会では、年間を通して清掃、植物の観察と記録、ササ刈などの活動を続けているそうです。3月末から4月のはじめはカタクリのお花見に訪れる人が多くて混み合うそうですが、この日はそれほどの人出もなく、ゆっくり観察できました(坂本 郁子)。



カタクリの花(左)と大泉みどりの会の小泉さんに清水山憩いの森とカタクリの説明を聞く(柵の中は一面カタクリの花でした)

活動のお知らせ

運営委員会：6月15日(土) 12:30~13:30
作業・観察会の後にラーメンしらかばで報告や活動内容などを相談します。
連絡先；坂本(090-4618-1295)
会報の印刷・発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく
日時：7月20日(土) 12:30~
活動の問い合わせは事務局 瀬田(3969-7124)まで

第17回総会

日時：5月25日(土) 12:00~14:00

場所：三園1丁目集会所(板橋区三園1-36-6)

午前中の活動に出られない人は、11時30分にトンボ池に集合。地図が必要な方は、坂本まで(090-4618-1295)総会資料を持ってきて下さい。

活動予定いろいろ

1 赤塚ピオトープの観察と環境整備(雨天の場合は観察とゴミ拾い)

5月25日(土) 10:00~12:00 トンボ池の整備(ヘドロ掻きだし、小雨実施)
場合によっては5月22日(水)、29日(水)にもやります。事前に確認して下さい。

6月8日(土) 10:00~12:00 バッタ広場の植物調査

6月15日(土) 10:00~12:00 バッタ広場 樹木の切り詰め

7月20日(土) トンボ池と水路の点検

2 成増1丁目向新田の森 観察とササ刈り

6月22日(土) 10:00~12:00

成増1丁目向新田の森 観察、ササ刈、植物の移植

雨天の場合は6月29日(土)

日暮台公園樹林地観察会(樹林地内の推移と林縁植物を観察)

6月1日(土) 7月6日(土) 10:00~11:00 日暮台公園前集合

ピオトープ管理のボランティア大歓迎

生き物のすめる水辺(トンボ池)や草地(赤塚公園バッタ広場)などの管理作業を応援していただけませんか。

大きくなった木を切ったり、セイタカアワダチソウなどの外来植物や生育旺盛なササを刈り取ったりしています。

あなたも会員になってください(年会費2000円：振込先は表紙に記載)